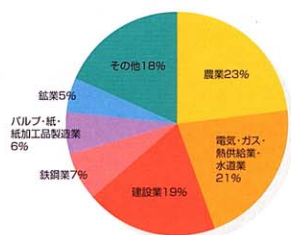


## 建設廃棄物の現状

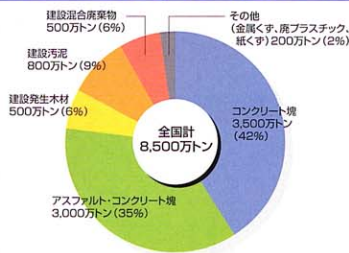
建設廃棄物は、産業廃棄物全体の排出量の約2割(図1)をしめており、建設工事現場からの建設廃棄物の排出量は、全国で年間約8,500万トン(図2)。これは東京ドームの約50個分に相当する膨大な量となっています。さらに、産業廃棄物の最終処分場は残存容量が少なくなっており、残余年数は全国で3.3年、首都圏においては0.8年分しかありません(表1)。なお、建設廃棄物のリサイクル率は全体で約8割となっていますが、木材や汚泥についてはリサイクルが遅れています。(図3)

図1 産業廃棄物の業種別排出量(平成10年度)



出典：環境省調査

図2 建設廃棄物の種類別排出量(平成12年度)



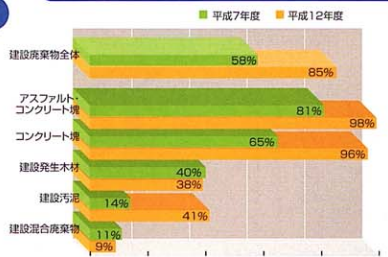
出典：国土交通省調査

表1 産業廃棄物の最終処分場の残存容量及び残余年数

区分	最終処分量(万t)	残存容量(万m <sup>3</sup> )	残余年数(年)
首都圏	1,769	1,380	0.8
近畿圏	806	1,540	1.9
全国	5,800	19,031	3.3

出典：環境省調査(平成11年4月1日現在)

図3 建設廃棄物の品目別リサイクル率



※建設発生木材は、再資源化率(建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化された量の割合)の値、またその他の建設廃棄物は、再資源化等率(建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化及び縮減された量と工事利用された量の合計の割合)の値。

## リサイクル率の目標

コンクリート塊 平成22年度に95%      建設発生木材 平成22年度に95%      アスファルト・コンクリート塊 平成22年度に95%